

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ

xSDG コンソーシアム 2024 年度 研究プロポーザル

慶應義塾大学 SFC 研究所では、持続可能な社会を実現し、多様で複雑な社会における問題解決を行うため、2017 年 10 月に xSDG・ラボ（エクスエスディージーラボ）、2018 年 6 月に「xSDG コンソーシアム」を設立しました。スタートアップとしての第 1 期研究期間（2018-2020 年度）に続き、「行動の 10 年」の始まりを告げる第 2 期研究期間（2021-2023 年度）を経て、第 3 期研究期間へと突入します。2024 年度も、今まで以上に未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間である企業や自治体といったステークホルダーのみならずと研究者とのコラボレーションにより、SDGs 目標達成へむけた先進事例や優良事例を作り、これを日本から世界に発信し、スケールアップを実践できればと思っております。皆様のご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

* xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間を「Vision Sharing Partner(VSP)」(会員)と呼称します。

【目的】

SDGs 達成へ向けたアクションの優良事例の創出と行動基準づくりを行い、これを通じた知識と実践の基盤を構築する

【活動内容】

1) コンソーシアム・ミーティングで、アイデアやコラボレーションの創発

全体会合となる「コンソーシアム・ミーティング」において、テーマに沿った有識者や関係省庁関係者による専門的知識や最新動向など情報提供や、議論・意見交換を実施する場の提供、各会員企業様による取り組み、グッドプラクティスや直面する課題の共有を通じた課題の解決に向けた議論やコラボレーションの創出、など、各種活動を通じて、SDGs 達成へ向けての変革の促進、SDGs 的アクションのあり方を検討します。また、SDGs の国際動向や国内実施、指標、政策の動き等に関する情報提供や、VSP の皆様のグッドプラクティスの共有や情報交換を通して、より良いアクションの模索、推進を行います。

今年度は、会員の皆様の最も関心の高いテーマを各回で取り上げ、そのテーマに沿った専門家による講演、ワークショップ、会員の皆様からの発表などを予定しております。

* 社会状況に応じて、交流会（レセプション形式）の設定も検討してまいります

2) Action Oriented Project (AOP) で、具体的なアクションの創出へ

これまで分科会の活動を通じた個別課題を掘り下げた検討、課題解決につながるアクションの模索を続けてきました。今期からはそこからさらに一歩踏み出す形で、具体的な研究プロジェクトへのご参加を通して、アイデアを具体的なアクションへと移していくフェーズに進みます。AOP は具体的なアクションで協働する「場」というイメージです。今期は以下の AOP の実施を予定しておりますが、皆様からのご提案をオープンに検討したいと思っておりますので、積極的なご提案をお願いします

シナジーとトレードオフ：

2024 年度から、適応・生物多様性・循環型社会を中心とした脱炭素へ向けた環境問題と、SDG とのシナジー・トレードオフの研究を進めます。理論的なシナジー・トレードオフの検討と同時に、ビジネスの現場に生きるシナジー・トレードオフの検討を進めます。例えば、自治体や企業の地球温暖化対策の計画策定

(目標 13) が進められたとしても、気候変動への対応としては機能することが見込まれますが、一方で、ジェンダー平等や女性・女兒に関する記述が十分でない場合は、性別に基づく固定的な役割分担意識や、社会的規範などによって、結果として貧困をはじめとする困難な状況に置かれる女性に対して、男性よりも大きな負の影響が生じてしまう(目標5)といったトレードオフが発生することが予想されています。こうした問題を具体的な「場」で分析し、トレードオフを考慮しながら、シナジーに転換する方策を策定できないか、検討を進め、実装する、といった活動が想定されます。

未来財務情報 SDGs ガイドライン：

企業での非財務情報開示における SDGs の扱い方のガイドラインを検討することを目的とする「未来財務情報 xSDG 分科会」では、2022 年度まで、各企業会員が自社・団体のミッション、企業価値・財務、ステークホルダー、革新的な業務プロセスなどの連関を整理・検討する「戦略マップ」を作成、ブラッシュアップを実施してきました。また、2023 年度は自治体会員と企業会員の連携可能性に焦点を当て、分析と議論を行ってきたところです。こうした蓄積をもとに、「戦略マップ」を作成する詳細な行程の解説から、企業・自治体において実際に活用した経験をまとめた「未来財務情報 SDGs ガイドライン(仮称)」を製作します。会員企業・自治体におかれましては、本ガイドラインの編集委員となって頂き、掲載内容の検討から、内容の執筆を分担して行います。本プロジェクトの成果物となるガイドラインは、xSDG・ラボのウェブサイトにて電子データで掲載、公開する予定です。

SDGs Today：

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボと国際航業株式会社・ESRI ジャパン株式会社との共同研究の成果として製作した、日本の SDGs の進捗状況の可視化を志向する情報のハブサイトである「SDGs Today Japan」に、各会員の SDGs 達成に向けた取り組みに係る Storytelling を作成・掲載するプロジェクトです。2023 年度は、日本航空株式会社の協力を得て、同社が 2022 年 11 月に羽田・那覇空港間で実施した「2030 サステナブルチャーターフライト」を対象に、その航路上で実施された同社の取り組みが、SDGs のどの目標の達成に、どのように貢献しているのかを説明する Storytelling を作成しました。新年度も、GIS(地理情報システム)を活用しながら、会員のサステナビリティ、SDGs といったキーワードに関連する取り組みの意義や価値を伝える Storytelling を作成します。見える化の一つの「場」としてお考え下さい。

ヘルスコモンズ：

2021 年度より、慶應義塾大学では科学技術振興機構(JST)の「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の一環として、「誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点」事業を、東京工業大学、東京医科歯科大学、理化学研究所と連携し、企業や自治体など多数の参画機関とともに実施しております。「後病」というコンセプトを提唱し、主に病気から快復した後健康状態を維持し再入院や症状の悪化を防ぐための方策や仕組みの検討・開発を目指して 2030 年度まで実施・実装する予定です。本事業の研究開発課題 7「SDGs の観点からの各課題のデータの整理・統合・評価」において、これまでに SDGs の 169 ターゲットレベルで後病や保健医療分野に関する調査分析を進めてきました。来年度からは、これまでの研究開発に当事者に寄り添う仕組みやサービスを医療や地域の現場において実装するための実証研究を始める予定です。また、本事業において提唱している「後病」のコンセプトやそれに関連する取り組みについてグローバルに発信、展開し、ポスト 2030 年目標に生かしていくためのコンセプトづくりを始めることも視野に入れていきます。

上記以外のアイデアも募集します。例えば、現在共同研究として開発、展開を進めています SDGs Today Japan をベースとした上記プロジェクトのように、既存の共同研究の延長線上でパートナーの皆様と進めさせていただく方法や、新たな形の共同研究も進めていきたいと考えています。共同研究をご希望されます会員の皆様、Action Oriented Project のプロジェクト案のご提案をご希望されます会員の皆様におかれましては、ぜひ事務局にご相談ください。

* VSP-S(S 会員)および VSP-D(D 会員)、VSP-LG(自治体会員)は、プロジェクトの設置提案

と運営、参加が可能。VSP-G（G 会員）および VSP-SME（中小企業会員）は 1 プロジェクトまで参加が可能

3) 勉強会を通じた最新情報の提供

SDGs に関連する国内、国際動向に合わせた最新情報をより多く提供できるよう、専門家を招いた「勉強会」を開催します。

毎回 SDGs に関連する個別のテーマをピックアップし、最新情報を学び、その先を議論できる機会を設けたいと考えております。

4) 企業と地方自治体、関係省庁と NGO/NPO とのコラボレーション創出

コンソーシアム・ミーティングや AOP に、企業と地方自治体、オブザーバーとして関係省庁や NGO/NPO が参加することで、パートナーシップ（目標 17）による目標達成を実装します

想定されるパートナーシップ： 内閣府地方創生推進事務局「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」と連携し、官民マッチング後の課題検討を深掘りし、実態を伴うプロジェクトを創出、など

5) コンソーシアム相談会の開催

アクション創出へ向けたアドバイスの実施をいたします

* VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）が対象。随時ご希望に応じて対応いたします。

6) シンポジウム等の開催

* VSP-S（S 会員）が対象

7) 年次報告会の開催

8) 年次報告書の公表

9) 「SDGs 白書」の刊行

10) その他の媒体による発信：例；朝日新聞未来メディア 2030 での発信、など

以上に加え、SDGs 推進事例として VSP の活動を取り上げる書籍企画（参考：『企業のリアルな事例でわかる SDGs の課題別推進方法』第一法規）、学生との協働（寄付講座設置（別途お申し込み）、授業との連動など）などの機会も検討いたします。なお、本ラボの活動にご参加いただいた場合、ご希望があります場合、SFC 研究所 ヘルス・ランニングデザイン・ラボ（代表：蟹江憲史 <https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/lab/rdlab/>）の一部活動へのご参加も可能となります。

* 全研究期間をつうじた活動による

【成果（予定）】

- ・ 年次報告会の開催（VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）による報告、など）
- ・ 年次報告書の発行（メンバー、VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）を中心に分担執筆）
- ・ 「SDGs 白書」の刊行（メンバー、VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）を中心に分担執筆）

- ・ 各プロジェクトによる成果
- ・ 国連による「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム（High-level Political Forum on Sustainable Development；HLPF）などにおいて、xSDG・ラボおよび xSDG コンソーシアムが主体となり、公開イベントをニューヨークで開催
- ・ 共同研究の実施
- ・ シンポジウム等の開催（VSP-S（S 会員）による）

* 全研究期間をつうじた活動による

【研究期間】

第3期研究期間：2024年4月－2027年3月

2024年度研究期間：2024年4月－2025年3月

【2024年度活動計画（予定）】

- ・ コンソーシアム・ミーティング（年3-4回程度開催）
- ・ 年次活動報告会（年1回開催）
- ・ 「年次報告書」発行
- ・ コンソーシアム・相談会開催
- ・ 各 Action Oriented Project 活動（活動内容については各プロジェクトにより異なる）
- ・ 勉強会（年4回程度開催）
- ・ デジタル・プラットフォームの提供
 - 会員メーリングリストへのご参加
 - ニュースレターの配信等による電子媒体での情報提供
- ・ 外部イベント（シンポジウム等）への参加

【対象となる VSP（会員）】

- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所との連携により、SDGs の優良事例創出を考える企業、組織団体
- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所との連携により、SDGs の優良事例創出を考える自治体

【Vision Sharing Partner 制度（会員制度）】

xSDG コンソーシアムは、SFC 研究コンソーシアム（<https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/consortium/>）として実施される共同研究（年会費制）の一種となり、会員種別は次のとおりです。

xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間として、会員の呼称を「Vision Sharing Partner(VSP)」としています。

■ 特別会員

VSP-S（S 会員）：xSDG・ラボとの共同研究および寄付講座を推進する（第3期研究期間（2024年度から2026年度）において実施（予定含む））企業および自治体。年会費は、他の会員種別と同額となります

- ・ SFC との共同研究実施など、テラーメードの活動を推進いただけます。共同研究の推進にあたっては、xSDG コンソーシアム VSP のみなさまとの協働により進める方法も可能です
- ・ コンソーシアム運営会議の中心メンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます

- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会、および AOP にご参加いただき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向のプロジェクトの立ち上げやコーディネート、および推進をいただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます
- ・ コンソーシアム相談会にご参加いただけます
- ・ 年次報告会で、SDGs への取り組みや関連活動を発表いただけます
- ・ 年次報告書に、SDGs への取り組みや関連活動を記載いただけます
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

■ 企業・組織団体会員

➤ VSP-D (D 会員) : 100 万円/年

- ・ コンソーシアム運営会議のメンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます
- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会および AOP にご参加いただき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向のプロジェクトの立ち上げやコーディネート、および推進をいただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます
- ・ コンソーシアム相談会にご参加いただけます
- ・ 年次報告書に、SDGs への取り組みや関連活動を記載いただけます
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

➤ VSP-G (G 会員) : 50 万円/年

- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます (1 社あたり 5 名様まで)
- ・ AOP 1 つにご参加いただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます (1 社あたり 3 名様まで)
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

■ 中小企業会員

VSP-SME (中小企業会員) (SME : Small and Medium-sized Enterprises) : 30 万円/年

- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会にご参加いただけます (1 社あたり 5 名様まで)
- ・ AOP 1 つにご参加いただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます (1 社あたり 3 名様まで)
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に企業名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

* 中小企業に相当するかどうかについては、お問い合わせください

■ 自治体会員

VSP-LG (自治体会員) (LG : Local Government)

➤ 都道府県および政令指定都市 : 50 万円/年

➤ 市 : 30 万円/年

➤ 町村 : 10 万円/年

- ・ コンソーシアム運営会議のメンバーとして参画し、課題や議題を設定いただけます
- ・ コンソーシアム・ミーティング、年次報告会および AOP にご参加いただき、xSDG・ラボメンバーと連携し、アクション指向のプロジェクトの立ち上げやコーディネート、および推進をいただけます
- ・ 各種勉強会にご参加いただけます
- ・ 年次報告書に、SDGs への取り組みや関連活動を記載いただけます
- ・ コンソーシアム参加会員として、年次報告書に自治体名を記載いたします
- ・ デジタル・プラットフォームにご参加いただけます

(会費は全て税別表記)

これまでの xSDG コンソーシアム Vision Sharing Partner につきましては、下記 URL をご参照ください。
http://xsdg.jp/activity.html#xsdg_consortium

【SFCメンバー】

蟹江 憲史（政策・メディア研究科教授）
代表、統括

植原 啓介（環境情報学部教授）
ICTとSDGs

加藤 文俊（環境情報学部教授、政策・メディア研究科委員）
地域活性とSDGs

国谷 裕子（慶應義塾大学特別招聘教授）
SDGsの実施、ラボの研究成果発信、情報発信

佐久間 信哉（政策・メディア研究科特任教授）
地方自治体とSDGs

高木 超（政策・メディア研究科特任助教）
地方自治体とSDGs

田中 浩也（環境情報学部教授）
デジタルファブ리케이션とSDGs

玉村 雅敏（総合政策学部教授）
地域活性とSDGs

塚原 沙智子（環境情報学部准教授）
指標とSDGs

古谷 知之（総合政策学部教授）
統計とSDGs

村井 純（慶應義塾大学教授）
IoTとSDGs

【アドバイザー】

川廷 昌弘
（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン SDGs タスクフォースリーダー）

竹本 和彦（東京大学未来ビジョン研究センター特任教授、SDSN Japan 事務局長）

平本 督太郎（金沢工業大学教授・SDGs 推進センター長）

森平 爽一郎（慶應義塾大学名誉教授）

関係省庁

その他ステークホルダー

（お問い合わせ先）

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ事務局

252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

E-mail : xsdg@sfc.keio.ac.jp